

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第87回）
議事要旨

1. 日 時 令和8年3月26日（木）11:00～13:40
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室・オンライン会議
3. 出席者 川合議長、石原委員、長我部委員、隅田委員、田島委員、
中釜委員、中西委員、長谷川委員、結城委員、
上野委員、古屋委員、岡本委員、高柳委員、土居委員、
山田委員、三浦委員、伊佐委員、渡辺委員
（陪席者）
小川監事、植草監事、生駒アストロバイオロジーセンター長、
根本生命創成探究センター長
（事務担当者）
事務局 勝又総務課長、後藤人事労務課長、福市財務課長、
石橋研究協力課長、宮内施設・資産マネジメント室長
国立天文台 玉井事務部長、核融合科学研究所 飯野管理部長、
岡崎統合事務センター 成瀬事務センター長 他
4. 配付資料
経営協議会委員名簿
 - 1 経営協議会（第86回）議事要旨（案）
 - 2 令和8年度自然科学研究機構予算（案）について
 - 3 令和8年度運用計画（案）
 - 4 自然科学研究機構理事名簿
 - 5 自然科学研究機構外部評価報告書
 - 6 学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ2026」への申請意向表明について
 - 7 研究発表資料
 - 8 各機関の今後の方向性及び令和9年度概算要求について
 - 9 令和8年度経営協議会及び教育研究評議会開催日程

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数に達している旨の報告があった。

1) 議事要旨の確認について

前回経営協議会（第86回）の議事要旨（案）（資料1）を承認した。

《審議事項》

2) 令和8年度自然科学研究機構予算（案）について

岡本委員から、資料2に基づき、令和8年度自然科学研究機構予算（案）について説明があり、審議の結果、案（資料2）のとおり了承した。

3) 資金の運用計画について

岡本委員から、資料3に基づき、資金の運用計画について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承した。

《報告事項》

4) 理事の任命について

川合議長から、資料4に基づき、理事の任命について報告があった。

5) 自然科学研究機構外部評価について

上野委員から、資料5に基づき、自然科学研究機構外部評価について、報告があった。

（意見交換の内容は以下のとおり）

（○は各委員等からの質問・意見、➡は各委員等からの質問に対する回答）

- 提言にある「AI for Science」の理念とは具体的に何なのか。
- ➡ 大規模データに対し、AIを活用して研究を効率化し、人間では理解できない複雑な原理を読み解くという考え方と理解している。
- AI活用でサイエンスや人間育成が根本的に変わると思う。予測不可能なことが多いため、先見の明を持って注意深く進めてほしい。
- ➡ 重要なお指摘、ありがたく頂戴する。どこまで信用して使うかなど、留意して進めたいと考えている。

- 報告書を拝見すると、「機構長の裁量」に寄せられる期待が多数想定されているようにお見受けするが、機構長ご自身として、各委員から示された期待は本報告書に十分に反映されているとの理解でよろしいか。
- ➡ 外部評価委員とはかなり深く意見交換をさせていただき、その結果を踏まえて報告書が作成されたと理解している。
- 「地域大学への展開」について、国際的に活動する機構がなぜ地域連携を強める必要があるか。
- ➡ 国立大学法人等の機能強化に向けた検討会の改革の方針に地域社会を先導する人材の育成があり、地方大学と連携して技術者を育成することで、間接的に地域に貢献しようという意図があったためこのような記載となっている。文章が分かりにくかった点は整理させていただく。

6) 学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ 2026」への申請意向表明について

岡本委員から、資料6に基づき、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ 2026」への申請意向表明について報告があり、引き続き提案機関の長から申請内容について説明があった。

(意見交換の内容は以下のとおり)

(○は各委員等からの質問・意見、➡は各委員等からの質問に対する回答)

- 量子マルチビーム共創拠点の場所は未定なのか、それともある程度目星がついているのか。
- ➡ 候補地はあるが、現時点では場所を明言することは控えさせていただきたい。
- TMT 計画の現状を教えてください。
- ➡ ハワイ側が法律を変えて、反対運動が起きにくい撤去済み望遠鏡の跡地を利用できるよう調整している。地元住民への説明を引き続き丁寧に行っていきたい。
- 生理学研究所の AI やデータセンターの電力消費やエネルギー供給についてどのようにお考えなのか。
- ➡ データセンターを分散させて作っていくことで対応を検討している。
- 日本にまともな AI データセンターが作れるのか自体が問題ではないか。
- ➡ 重要なお指摘、ありがたく頂戴する。まずは既存データの保持から始め、段階を踏んで実現性を高めていきたいと考えている。

- 報告いただいたロードマップは、予算規模が桁違いに膨らむ可能性がある。ヒアリングに向け、夢物語ではなく現実的な計画を煮詰めておくべきだと考える。
- ➡ 重要なお意見、ありがたく頂戴する。

《その他》

7) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、分子科学研究所の岡本 裕巳教授から、資料7に基づき、「キラル光学効果と顕微イメージング」と題して発表が行われ、意見交換を行った。

8) 各機関の今後の方向性及び令和9年度概算要求について

土居委員、山田委員、三浦委員、伊佐委員、渡辺委員、生駒アストロバイオリロジーセンター長及び根本生命創成探究センター長から、資料8に基づき、各機関の今後の方向性及び令和9年度概算要求について報告があった。

(意見交換の内容は以下のとおり)

(○は各委員等からの質問・意見、➡は各委員等からの質問に対する回答)

- 記載されている教員の所属について、他大学での所属がある場合は、その大学名も入れてはどうか。
- ➡ 本務先の大学の許可を得て、兼任教授という形で活動いただいているため、肩書としてはこのような記載で問題ないと考えている。
- ゲノムデータベースについて、国立遺伝学研究所との協力はあるのだろうか。
- ➡ 解析方法は国立遺伝学研究所と共同で行い、基礎生物学研究所は画像データとの統合にフォーカスした形で積極的に進めていくことを考えている。
- ヘリウムの回収率はどのくらいだろうか。
- ➡ 岡崎全体で約92%と高い回収率を維持している。

9) 令和8年度会議開催日程について

事務局から、資料9に基づき、令和8年度の会議開催日程について報告があった。

10) 退任委員からの挨拶

11期の終わりにあたり、委員を退任する中釜委員、岡本委員から退任の挨拶があった。

以上